

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

学習習慣の確立を通して、学びに向かう力を育む

川俣町立川俣中学校

与えられた課題に関しては、意欲的・積極的に取り組んではいるものの、自分で課題を見つけて取り組むことを避けたり、「わからない」と感じたことに対して追究をあきらめてしまったりする生徒が多い。そこで、授業において学習内容や学習方法等の見直しをもたせて家庭学習に取り組みせ、その学習の成果を次の授業に生かす場を設定したり、「家庭学習予定表」を活用したりすることによって、学びに向かう力を身に付ける指導に取り組んでいる。

取組のねらい

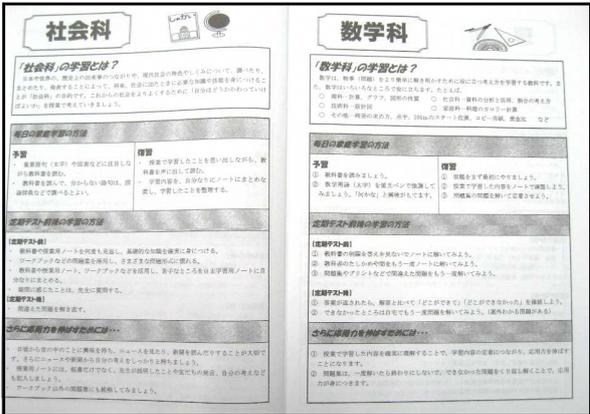
家庭学習を通して、自己マネジメント力を育成し、学びに向かう力を育てたい。

家庭学習の実践を通して、R-PDCA [Reserch (自分を知る)、Plan (計画する)、Do (自ら学習する)、Check (確かめる)、Action (見直す)] サイクルを身に付けさせることにより、自己マネジメント力の育成を図り、福島県及び川俣町の復興を担う子どもたちに確かな学力及び生きる力を育む。

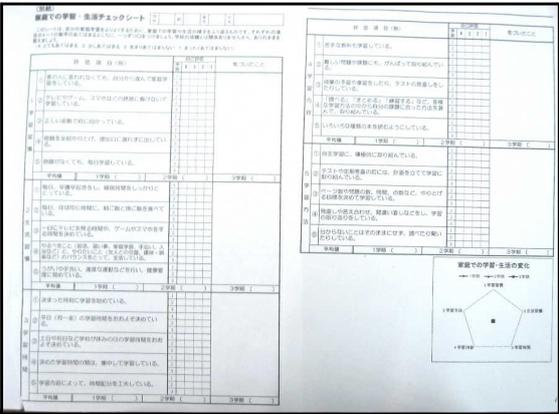
取組の内容

1 学習の手引きの活用

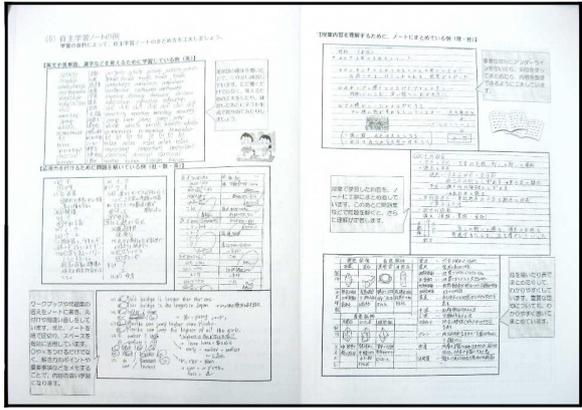
4月のガイダンスで「家庭学習の手引き」を配付し、生徒に学習の仕方を説明する。また、定期テスト後に、「学習の手引き」の振り返りシートを活用して自己評価させ、それを各担任が集計・分析することで、生徒の実態を把握し、家庭学習の仕方についてアドバイスを行う。



〈各教科の学習の仕方〉



〈学習に関する振り返りシート〉



〈自主学習ノートの例〉

【川俣中学校「家庭学習の手引き」の内容】

- 1 年間のテスト計画
 - ・ テストの種類や実施日、教科等
- 2 家庭学習について
 - ・ 学習時間の目安や計画作成の概要
 - ・ 家庭学習のポイント
 - ・ 自主学習ノートの見本
 - ・ 各教科の学習の仕方 (5教科)
- 3 定期テストについて
 - ・ 定期テストの計画の立て方
 - ・ 定期テストの受け方
- 4 家庭での学習・生活チェックシート

2 生徒の毎日の学習状況を教師が確認

生徒は、「自主学習ノート」に毎日2ページ以上の家庭学習を行う。翌日の朝に提出し、担任が学習状況を把握し、コメントを中心に個に応じた指導を行い、その日に返す。また、他の生徒の参考となるノートについては、学級で紹介する機会を設けている。

3 家庭学習を活用した授業づくり

事前課題で本時の中心となる事象や事柄について関わらせるような働きかけを行うことにより、授業で「問いをもたせるきっかけ」や、本時の学習に「意欲的に取り組むきっかけ」をつくり、課題や見通しをもたせやすくする取組を推進してきた。

また、授業で学習したことを活用できる日常場面や活用方法、また、活用できる問題やその解き方等を紹介し、生徒が家庭で行う学習内容や学習の仕方について見通しをもてるよう、指導してきた。

課題把握	<p>※カボチャは水に浮く</p> <p>・カボチャが水中で軽く感じるのは、上向きの力が働いているからだということ、浮力の測定方法を知る。</p> <p>(2) 事前課題(家庭学習)の内容をふり返り、カボチャの場合と比較する。</p> <p>【演示実験】 ジャガイモを水に入れたらどうなるか？</p> <p>※ジャガイモは水に沈む</p> <p>・水に沈んだジャガイモに浮力が働いているかどうかを確かめる。 ・浮力の大きさが異なるのはなぜか疑問を持つ。</p> <p>(5) 学習課題を見出す。</p> <p>浮力の大きさは、物体の何に関係しているか？</p>	<p>○既習内容の確認としてカボチャに働く力を板書し、そこから浮力の向きを全体で確認する。</p> <p>○ニュートンばかりの目盛りは生徒に読ませ、その使い方や読み方を周知する。</p> <p>①事前課題(家庭学習)で本時の中心となる事象に関わらせることにより、「問いを持たせるきっかけ」をつくり、学習課題や見通しを持たせやすくする。</p>
	<p>○形や大きさの異なる2つのジャガイモを用意し、沈んでいる物体にも浮力が働いていること、浮力の大きさが異なることを確認させる。</p> <p>○生徒から出た言葉を用いて学習課題を設定し、自分たちが見出した問題を自分たちの言葉で学習課題に高めさせる。</p>	

〈家庭学習と授業を連動させた授業展開〉

4 「家庭学習予定表」の活用

小学校と違い、中学校は教科担任制であるため、どの教科がどのくらいの量の宿題を出しているかの情報を把握することはなかなかできていなかった。そのため、宿題の量が多く生徒の負担が大きくなる日も出てきてしまうことが懸念される。

そこで、各教科から出される宿題の内容や範囲の書かれた付箋を、「家庭学習予定表」に貼り、締め切り日までを矢印で示すことによって、宿題に関する情報(その学級で出されている宿題の内容や量、提出切までの期間等)を生徒及び教師が互いに共有し把握できるようにした。このことによって、生徒本人が「何を」「いつまで」に宿題としてやらなければならないかを意識し、そのために家庭学習として「何を」「どのように行うか」の見通しをもたせることにつなげたいと考え、実践を継続している。

〈家庭学習予定表〉

5 保護者に向けて「家庭学習スタンダード」の活用を啓発

毎週末発行の「学年だより」等を利用したり、授業において生徒に説明したりしながら、「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」の内容について紹介したり、生徒の様子、学習・生活面の指導、家庭での具体的な支援などを伝えるとともに、学校と家庭との連携を図る。

【啓発内容】

- 自己マネジメント力を育む家庭・地域の関わり
 - ・ 自己マネジメント力について
 - ・ 生徒の心の支えになるような言葉かけ
 - ・ 環境づくりになるような言葉かけ
 - ・ 習慣づくりにつながるような言葉かけ
- 家庭学習を充実させるための家庭・地域の3つの視点
 - 視点1：コミュニケーションを大切に、安心感を与えること
 - 視点2：学習に集中できる環境づくり、家族で読書をする機会の設定、地域行事への参加
 - 視点3：早寝・早起き・お手伝い、朝ごはんの推進、テレビやゲーム、スマホの使用ルールづくり

6 川俣町PTA連絡協議会 教育懇談会の実施

1月1日、川俣町内の小・中学校PTAが一堂に会し、川俣町の教育について、町教育委員の方々や町指導主事の先生方を交えて情報交換や懇談をする「教育懇談会」を開催した。今年度のテーマは、『家庭学習スタンダード』をもとに、親として子どもにどう働きかければよいかとした。

はじめに、今年度開校した山木屋小・中学校のPTAの取組の紹介があり、その後、福島県教育庁義務教育課主幹の板橋竜男先生から、「家庭学習スタンダード」の意義や活用に関して、資料を基に講話をいただいた。その後、教育委員の方々や指導主事を交えて5～6人のグループをつくり、テーマに関するグループ協議を行った。



〈教育懇談会での講話の様子〉

グループ協議は初めての試みであったが、たいへん活発な話し合いが行われた。以下は、話し合われた内容を共有するために発表した班の内容である。

小学生に、自己マネジメント力を身に付けさせるのは難しいが、親と一緒に目標を立てたり、できたところまで誉めたり、できなかったところと一緒に考えたりすることも、自己マネジメント力の育成につながるのではないか。

家庭学習は、親と子と共同で行いたい。話し合いを通して、目標をもって進んでいく過程を見ていくことが大切だと思った。

最後に、板橋先生からいただいた指導助言での言葉を紹介する。

- ・三者面談はなぜ行うか？それは、子が自己決定するために行うものである。子どもが言う前に親が言ってしまう…これは面談ではやってはいけないこと。
- ・スマホ、テレビを一人で見るよりも、家族で一緒に対話しながら見るのは良いことである。
- ・時には教えて、見守って…、いろいろな場面で関わって子どもの心を動かしてほしい。

実践して見えてきたこと

○事前課題など、家庭学習と授業を関連させる工夫の有効性を確認

事前課題として、家庭学習で取り組ませたことを活かした授業展開の工夫をすることや、学習したことを活用して新しい課題に挑戦したくなるような授業の工夫によって、家庭学習と授業のつながりを実感できるようにした実践があった。この実践から、生徒が家庭学習の意義やその効果を理解したり、予習を行うことで授業の内容が一層分かるようになり、復習を行うことで学習内容が定着したりすることを実感する生徒が増えてきている。次時へつなげる手立てを行うことが多かったが、生徒が家庭学習を意欲的に、しかも見通しをもって取り組み、その姿が次の授業で生かされるというイメージで、家庭学習と授業を関連させた実践を積み上げていきたい。

○「家庭学習予定表」を活用して、生徒も教師も「宿題」の情報を共有

「家庭学習予定表」を教室に掲示し活用することによって、生徒は先を見通して計画的に宿題を行う環境を整備することができたと考える。また、教師は、宿題を出している教科数や宿題の量、締め切りまでの期間等の把握をすることができるため、調整しながら宿題を提示できる環境を整備することができたと考える。生徒と教師が宿題について共有できるようになったことが成果である。このことにより、無理のない家庭学習の継続と、見通しをもって学習に取り組む姿を見取り励まししながら、今後も「家庭学習予定表」を継続して活用し、生徒の「自己マネジメント力」の育成につなげていきたい。

「家庭学習スタンダード」の活用実践事例

家庭学習習慣の定着と自らの課題に取り組む態度を育む

川俣町立川俣小学校

家庭学習習慣を身に付けていた児童は、担任への聞き取り調査によると7割程度であった。習慣を確立させるためには家庭との連携が不可欠であり、保護者向けに啓発を図るための取組を行った。

また、児童が進んで課題に取り組めるようにするため、家庭における学習の仕方を指導し、自主的に学習する態度や学びに向かう力を育てていきたいと考えている。

取組のねらい

自覚をもって(自主的に)学習する態度を育成したい

これまでの家庭学習実施率から察するに、本校児童の家庭における学習環境が100%整っていたとは言いがたく、その背景も様々な要因が挙げられる。そこで、児童の、家庭における「学習習慣の定着」を目指し、さらにどんな学習をしていけばよいのか「家庭学習の仕方がわかる」ようにすることで、家庭との連携を深め、併せて児童の自己マネジメント力を育成する。

取組の内容

1 「家庭学習スタンダード」の啓発

(1) 「家庭学習スタンダード」による啓発活動

県教育委員会の最重要施策「学びのスタンダード」推進事業について説明するとともに「家庭学習スタンダード」に基づき、家庭学習の重要性と家庭における学習環境の整備に賛同いただくようお願いした。(4月PTA総会にて)

(2) 担任による具体的な協力依頼

本校版「家庭学習の手引き(保護者用)」を見直し、より具体的に表記した手引きを配付し説明した。(4月懇談会)

また、使用するノートや筆記用具についても明記し、保護者が何を準備すればよいのかすぐに分かるよう配慮した。



〈校長による啓発〉

平成30年度 川俣町立川俣小学校

家庭学習の手引き (保護者用)

本校では、「確かな学力形成と定着」を目指して、各教科等の指導に取り組んでいます。「確かな学力」を身に付けさせるには、学校と家庭との連携を図りながら、学習の仕方や学習習慣を身につけさせること、つまり「自己マネジメント力」の育成が大切です。家庭における学習の習慣化を図るために、保護者の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

家庭での学習を習慣化しましょう

★学習時間の最低ライン (宿題から開始して学習する)
○10分×学習+10分×休憩の繰り返し(20分)

★学習アップは規則正しい生活から

- 早起・早起き
- 朝食は必ずとる(家族と一緒に)
- 朝の挨拶
- テレビやゲームは時間(ルール)を決める
- 自分で時間割や学習用具をそろえる

★学習の3つのポイント

- なかに勉強をしない
- よい姿勢です
- 机(テーブル等)の上をきれいにしておく

家庭学習のねらいは・・・

- ① 子どもに家庭での学習習慣を身につけさせることです。
- ② 子どもに**自覚的な学習態度**を伸ばすことです。
- ③ 子どもに**家庭も学校と同じ学び場である**ことをわからせることです。
- ④ 子どもに**確かな学力**を身につけさせることです。

今年度の重点

- ★土日も学習しましょう
- ★週末読書をしましょう
- 保護者の方の読み聞かせ(1年生)
- 図書館を利用しましょう(2年生～)

★家庭学習への取り組みせ方★

① 担任から出る「依頼」を最初らせてください。時間が経ったら、各学年の「家庭学習の手引き」の中から選んで取り組ませてください。(5、6年生には自分で考えさせてもよいでしょう)。家に届いたら必ず、**自分だけの時間に取り組む**よう。ご家庭でも声をかけてください。

② どうしても勉強にあきてしまうときは、**読書でも折り紙でも何でも構いませんが、必ず机(テーブル等)に向かひせてください。**「宿題がない学習なる場所(机、テーブル等)に向かう」という習慣が大切です。

★家庭学習を充実させるための保護者の役割★

1 見届け・助まじして心の支えに
任のたしなみに、子どもたちはほとんどやる気を出します。下学年ではお父さんと一緒に取り組み、上学年ではお父さんが学習したこと目を通してくださるようお願いいたします。**家庭学習カードへのサインもお願いいたします。**
毎月1度(低学年は2週間に1度)、家庭学習カードに保護者からのコメントを書いていただきます。お忙しいところとは思いますが、ご協力のほどお願いいたします。

2 学習環境づくり
テレビをつけながら勉強をしても、効果は上がりません。お父さんが落ちついた学習環境で学習できるように、ご家庭で工夫をなさってください。

3 習慣づくり
自分で決めた時間に学習する習慣を身に付けさせましょう。早起・早起き・お手洗いなど、家庭での時間割に学習する習慣を身に付けさせましょう。自己マネジメント力の育成につながります。無理のない時間割設定ができるよう、一緒に計画してください。

学用品について

★ 学校で使用するノートについて、各学年の発達段階を考慮して決めてあります。新しいものを購入する際参考にしてください。

① 今年度使用するノートの一覧

新しいノートを購入する際は、お子さんが使用しているノートと下記の表を参考にしてください。

教科	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	8マス→10マス リネーダーAU	12マス→10マス リネーダーAU	18マス	17マス→10マス	10マス→10マス	15マス→10マス
算数	50マス	84マス	104マス	120マス	120マス	150マス
作文	84マス	120マス	162マス	162マス	200マス	200マス
社会(国)			102マス	102マス	82マス	82マス
算数(算)	8マス→7マス →14マス	17マス	102マス→102マス	102マス→102マス	82マス	82マス
理科(理)	14マス	17マス				
理科(理)			102マス	102マス	82マス	82マス
音楽(楽)			102マス→102マス	102マス→102マス	82マス	82マス

※ 学習ドリルノートについては、「20年5月発行ドリルノート」を全学年使用。低学年については、それ以外にドリル用ノートを購入。

② 各学年で使用する筆記用具

低学年・・・2BかBの鉛筆、赤青鉛筆、定規10～20cm
 中学年・・・B程度の鉛筆、赤青鉛筆または赤青ボールペン、定規10～20cm
 高学年・・・BかH Bの鉛筆、赤青ボールペン、定規10～20cm
 マーカーペン(1本)

★ 鉛筆については、できるだけ装飾のないものにしてください。
 ☆ 鉛筆の正しい持ち方を身につけるには、三角鉛筆がお勧めです。

鉛筆の正しい持ち方

鉛筆は、Bか2Bがよい。

人さし指と親指を握らないで、両手をそろえて持つ。

中指と薬指は、かかるとあるところの少し上を持つ。

鉛筆の かつむけ方にも、気をつける。

親指は、かかるとあるところ、紙につける。

中指と薬指は、かかるとあるところ、紙につける。

よくない持ち方の例

2 「家庭学習スタンダード」に基づく学習の仕方の指導

低・中・高学年ごとに、「学習内容」と「学習の仕方」を「家庭学習のやり方」にまとめ、各学年に応じた指導を継続して行ってきた。

- (1) 低学年は、課題をやりぬくこと（学習習慣の形成と学習に向き合う態度の育成）
- (2) 中学年は、課題が終わったら、自主学習への取組を奨励（自主学習の内容を自分で決める自己決定力の育成）
- (3) 高学年は、課題が終わったら、計画的に自主学習を進められるようにすること（自己決定力と実践力の定着）

かていがくしゅうのやりかた

☆ **まず、しゅくだいをしましょう。** 1・2年生用

おんどくをするときは

- しついでをまわして よみましよう。
- 「し」や「じ」に きをつけて よみましよう。
- ゆっくり よみましよう。
- おおきな こえで よみましよう。

ひらがな・カタカナ・かんじでは

- ひらがな・カタカナ・かんじを ただしく、かけるようにましよう。
- ひらがなのかきじゆんや おくりがなに きをつけて ていねいに かきましよう。

につきをかくときは

- そのひのできごとや おもったことを かいてましよう。

けいさんをするときは

- たしざんやひきざんが ただしく できるよにましよう。
- けいさんカードが すらすら いえるよに ましよう。
- 2年生は かけ算九九が すらすら いえるよに ましよう。

☆ **こんばんごとも ちようせんしよ。**

- **どくしよ** がっこうからかいた ほんや、いえにある ほんを よみましよう。
- **おてつだい** かそくの ためになる しごとをましよう

〈低学年用〉

家ていしゅうのやりかた

☆ **まず 宿題を すませましよう。** 3・4年生用

宿題をするときは

- しつりよんでていねいにおこなましよう。
- 質問もあつめておこなましよう。
- 宿題がしつぱりしてかきましよう。
- 宿題がしつぱりしてかきましよう。

漢字では

- 漢字がしつぱりしてかきましよう。

漢字をするときは

- 漢字がしつぱりしてかきましよう。

日記・作文では

- 漢字がしつぱりしてかきましよう。

算数をするときは

- 算数がしつぱりしてかきましよう。

☆ **宿題が終わったら、自主学習に取り組ましよう。**

国語

- 読書：興味のある本を見つけて読ましよう。
- 日記・作文：その日にあった出来事や自分で決めたテーマについて、思ったことや考えたことを書ましよう。
- 言葉：ことばの意味、慣習やことばの由来を調べましよう。
- 漢字練習：苦手な漢字や前年の漢字を練習ましよう。
- 読書：教科書の本文などを写ましよう。

算数

- ドリル・教科書の問題などを何度もやってみましよう。
- 教科書やノートを見て、その日の学習をまとましよう。

その他

- 理科や社会の調べ学習
- 新聞やニュースで分かったことの記録
- リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習
- お手伝い・家族のための仕事

〈中学年用〉

家庭学習のやりかた

☆ **まず 宿題を すませましよう。** 5・6年生用

宿題をするときは

- 宿題を早くして読ましよう。
- 宿題をこめて読ましよう。
- 漢字にきをつけて読ましよう。
- 声の大きさを考えて読ましよう。

漢字では

- 漢字を正しく書けるよにましよう。
- 漢字の書き順や送り仮名に気をつけて、ていねいに書ましよう。

日記・作文では

- 漢字がしつぱりしてかきましよう。
- 漢字がしつぱりしてかきましよう。

算数をするときは

- 計算が正しく、速くできるようにましよう。
- 式や答え（単位を必ずかきましよう）をしっかりと書ましよう。
- 答え合わせをして、どこでまちがえたのか、なぜまちがえたのかを調べておましよう。

☆ **宿題が終わったら、自主学習に取り組ましよう。**

国語

- 読書：興味のある本を見つけて読ましよう。
- 日記・作文：その日にあった出来事や自分で決めたテーマについて、思ったことや考えたことを書ましよう。
- 言葉：ことばの意味、慣習やことばの由来を調べましよう。
- 漢字練習：苦手な漢字や前年の漢字を練習ましよう。
- 読書：教科書の本文などを写ましよう。

算数

- ドリル・教科書の問題などを何度もやってみましよう。
- 教科書やノートを見て、その日の学習をまとましよう。

その他

- 理科や社会の調べ学習
- 新聞やニュースで分かったことの記録
- リコーダーや鍵盤ハーモニカの練習
- お手伝い・家族のための仕事

〈高学年用〉

3 自己マネジメント力の育成に向けた「家庭学習カード」の工夫

家庭学習カードを新たに作成することとした。その中には、帰宅後の予定を想定し、家庭学習をいつ行うのか学習予定時刻を記入する欄を設けた。また、予定が変更となった場合にも対応できるようにするため、実際に学習した時刻を記入する欄を予定時刻欄の下段に設けた。自己を管理する能力、自己マネジメント力を育成する一歩とし、年間継続していくこととした。

家庭学習カード

家庭学習時間のめやす 学年×10分+10分

日	平日	土	日	月	火	水	金
1	平日	土	日	月	火	水	金
2	平日	土	日	月	火	水	金
3	平日	土	日	月	火	水	金
4	平日	土	日	月	火	水	金
5	平日	土	日	月	火	水	金
6	平日	土	日	月	火	水	金
7	平日	土	日	月	火	水	金
8	平日	土	日	月	火	水	金

年	組	番
学習予定時刻・時間(学習前に決める)	宿題	〇・△・×
実際の学習時刻・時間(学習後に書く)		

↑ 〈上段に学習予定時刻、下段に学習した時刻〉

← 〈使用している家庭学習カード〉・裏面にはチェックシート付き

実践して見えてきたこと

○家庭学習の提出率、94%へ

全校挙げての取組について保護者の理解と協力が得られたこと、そして何よりも児童自身の意識（自覚）が芽生えたこと等の要因から成果が見られたものと考えられる。提出率 100%を目指して、さらなる家庭との連携を強める取組にも着手していきたい。

○「何を学ぶのか」学びに向かう力の育成に向けて

学習内容と家庭学習を有機的につなぐための方法や主体的で深い学びに向けた「調べ、考え、書く」ことを中心とした家庭学習の内容の研究を深め、児童の学びに向かう力の育成に努めていくこととした。